



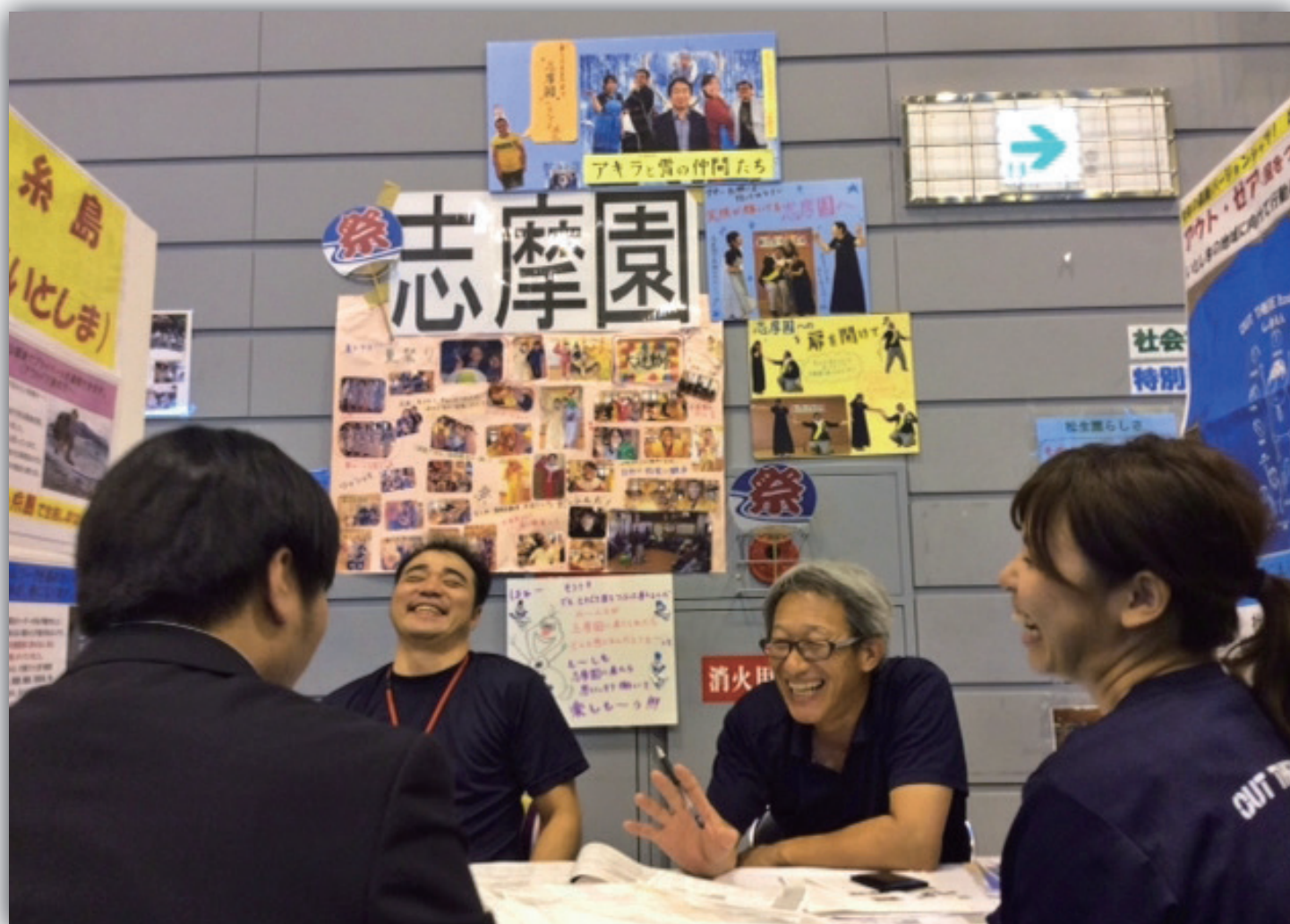
OUT THERE Itoshima 志摩園だより

2014. 10. 31発行
社会福祉法人
志摩会
第45号

福岡県糸島市志摩久家2527番地の2
Tel 092-328-2121
E-mail shimakai@proof.ocn.ne.jp
<http://www.shimaen.or.jp>

特別養護老人ホーム志摩園
ショートステイ
デイサービス
ケアプラン

配食サービス
志摩園支援センター
小規模多機能型居
宅介護



平成26年8月8日 福祉のしごと 就職フェア2014
in FUKUOKA (春日市)

**夏祭りに向けていたエネルギーはここで
はじけさせるもよし…**

たとえ果実は得られなくても、自分たちが
やりたかったことを表現できれば
ここは満腹になります

あちこちで運命の出会いがありますように…

今年も福祉や介護の仕事に特化した就職面談会に参加して参りました

電車の先頭車両を降りると、リクルートスーツに身を包んだ若い人たちの集団が改札出口の階段へ進んでいます。その姿を見て、これから30年、40年の職業人生、紆余曲折はあろうけど、自分の好きな仕事で全うできたらとても幸せなのよ と伝えたくになります。

私たちもその責任の一隅を負っているわけです。 さて、志摩園の意気込みは…

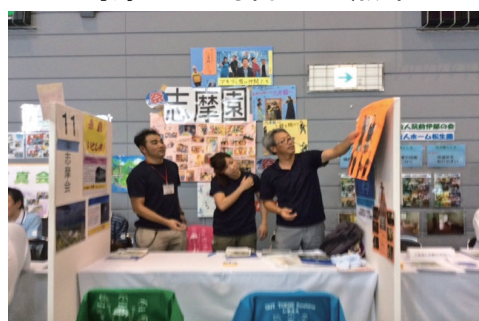


馬原 河合 黒木

この就職フェアのキモは自分たちのブースをいかに目立たせるか！流行りをユーモアたっぷりに、かつインパクトがあって楽しい雰囲気をかます…欲張りでした



フェア当日の朝、志摩園を出発するギリギリまで入念にチェック＆手直し



会場での飾付



呼び込み開始



呼び込み



アリーナ会場全景



介護人材の確保は国を挙げての課題となりました。担い手獲得は今や待ちから攻めの姿勢へ一変しました。採用担当者だけではなく、若手職員の感覚も借りて多様な人材を確保していきます。

事業統括部長 黒木

求職者が少ないことに驚くと同時にこれは大変だと感じました。志摩園のブースに来てくれた方たちと話すと、自分の体験を思い出し、身が引き締まりました。就職はご縁でしょう。次回もぜひ参加したいです

介護副主任 河合

楽しく仕事をしている雰囲気を伝えたく、職員の笑顔を中心に表現しました。進路が明確な方、迷っている方、それに合わせたお話を心掛けました。就職という人生の大きな節目で私が誰かのきっかけになれば…

グループリーダー 馬原

この就職フェア、以前の面談会に比べ、随分明るく、楽しい雰囲気にガラリと変身しました。福祉・介護の仕事のイメージアップ、強烈なアピールに違いありません。

志摩会敬老行事点描

今年も志摩会各事業所で、工夫を凝らした敬老行事が企画されました

特養志摩園



9月12日午前中志摩園内
5ヶ所を巡って長寿をお祝い
しました



翌日は午後から こでまりの
皆様をお招きして演芸を堪能



加布里小4年の生徒さんたちも、
ご利用者お一人ずつにお祝いの
寄せ書きを書いてくれました

9月15日たからんたま志摩



来年も見れるかわからんけど、
今年がえらい楽しかったけん、
来年もまた楽しかろうねえ…😊
(N様談)

9月17日こりん神在



志摩桜井の大東流合気柔術
道遥館の方々が演舞や三線
等で沖縄民謡や唱歌を披露



担当リーダー
馬原



藤嶋



ビブス返還式



4月1日、新人職員の皆さんに託した“赤い
ビブス”を10月10日返してもらいました。



～古賀職員育成部長のメッセージ～

本年度採用の新人職員4名が“独り立ち”
する日がやってまいりました。
6ヶ月間の初任者研修を修了し、一人の
介護職員として、全てのシフトに配置と
なります。 まだ学ぶことは山ほどあり
ますが、きっと素晴らしい介護のプロに
成長してくれるものと信じております



担当リーダー
浦山



楠本

第一印象は 笑顔 でした。
常に笑顔で接する姿勢は、私たち
のお手本にしなければと思うく
らいです。



担当リーダー
瓜生



尾崎

半年間学んだことをバネにして、
更なる飛躍を期待しています。一
生懸命な姿がとても頼もしいで
す。



担当リーダー
荒巻



井上

入園者と目線を合わせてお話し
するという、とても大事なことが
できていました。その姿勢をいつ
までも忘れずに…

姫島交流会レポート



毎年恒例の姫島の皆様との交流行事を今年は8月26日、姫島デイサービスと合同開催しました。

その中味は、“永遠の0”鑑賞会。姫島ご出身の俳優須田邦裕さんが出演しているとあって、皆さん気合も入ります。



補聴器使用の方に雑音の少ないきれいな音声が聴こえるように磁気誘導ループを市役所からお借りしました。

やさしかったとお声です
磁気誘導ループで聞取り



やはり涙を拭うハンカチは必需品でした…

■ 鑑賞後の感想…(一部のご紹介です)

- 戦争の恐ろしさ、戦死された家族の苦労がよくわかりました。いつまでも平和が続きますように。
- 終戦時6歳だった私は防空壕に入ったことを思い出しました。二度と戦争はしないでほしい。
- 国の為とはいえ若い少年たちが飛立っていく姿に感動しました。



交流会は夜の部へと続きます

零戦がもう一人の主演であったようにも見えました。

そこで… 零戦 ア・ラ・カ・ル・ト どうぞ



零戦20ミリ機銃弾
(安全品)



零戦の心臓 栄エンジン
シリンダーヘッド



無線管制機

原発災害避難計画の作成状況



9月27日 志摩園防災訓練

志摩園固有の課題に、玄海原子力発電所で福島第一原発と同様の事故が発生し、避難指示が発令された場合に対応するため、原子力災害避難計画の策定を求められています。

一昨年(2016年)の10月、福岡県は原発立地県の佐賀県と連携して初めての原子力防災に特化した訓練を実施し、志摩園も自動車を使って約40km離れた市外の特別養護老人ホームに広域避難する訓練に参加させていただき、介護が必要な方の広域避難の難しさを学びました。



この原発事故訓練の以前から法人として、大規模地震、風水害、火災などを想定したBCP（事業継続計画）の策定に着手してきましたが、当初BCPの想定する事故には原発事故は含めていませんでした。

原発事故が発生すれば、地域全体の人たちがみんな被災者であり、安全な人はいない中でいかに踏ん張るか、原子力災害を想定した避難計画等の策定は考えれば考える程困難を極めます。

また、避難できればそれで安心ということではありませんので、避難計画と事業継続計画は一体的に作り上げる必要があると考えています。

有事の際には志摩園に屋内退避したり、他の地域に広域避難するケースを想定しており、入所者と職員の安全確保を最優先しつつ、避難場所、避難経路、避難手段等を定めなければなりませんが、様々な要素が入り込んで前述のとおり、簡単には判断ができないことが多いのです。

更に、一時的避難で済めばまだしも、長期に避難が及べば心理的、身体的、社会的、経済的影響は負荷が大きすぎます。

このような状況ではありますが、県内の複数の特別養護老人ホームが志摩園の入所者の受入を表明してくださり、避難車両や人員などまで融通される内容を含む施設間協定を結ぶことを検討できるまで到達したことは、大変心強く思います。

これからも福岡県並びに糸島市、それに福岡県の高齢者施設団体等のご支援を頂戴して、今年度前半には原子力災害避難計画の初版が出来上がる目途がつけました（BCPの完成はもう少し後です）。



志摩園防災訓練



志摩園の避難計画について、今後入所の皆様とご家族にも説明の機会を設ける予定です。

志摩園メンタルヘルス研修



メンタルヘルスは「心の健康」と称されます。

ストレスの多い現代社会において、そのケアは非常に重要視されるようになりました。心の健康を保つため基本となるセルフケア＝自己養生として次の3つが大切です。

1 生活リズムを整える

健康は基礎固めが重要。業務シフト上、生活が不規則になりがちな介護職でも、バランス良い食事を摂る、睡眠の質を上げるなどの工夫ができます。それにリラックスできる時間も作りましょう。

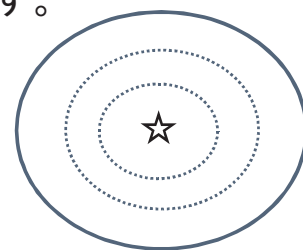
★志摩会には しま～ず (ソフトバレーチーム)、アイランス (軟式野球チーム) といった職員のアフターファイブの活動も自由に参加できます。

2 あたま を柔らかく

ストレスを感じる時は周りが見えにくく、物事を固定的に考えがちです。否定的にならず、考え方を変えるだけで楽になることがあります。

3 誰かに相談する

話を聞いてもらうだけでも気持ちが軽くなります。何よりも一人で苦しまないことです。右の円の中心☆印をあなたとすると、周りには家族、友人、仕事仲間… どんな人が書き込めるでしょうか。



平成26年7月23日 栗田輝久可也病院長をお招きして志摩園でメンタルヘルス研修を開催しました。

説明して下さい、最後に東京女子医大の坂元薫先生の「うつ病にならないための7つのストップ」を紹介されました。

- ①完全主義をやめる
- ②自分のミスに厳しすぎるのをやめる
- ③全てをコントロールしようとするをやめる
- ④余計な関りをもつのをやめる
- ⑤自分の体調や健康を無視するのをやめる
- ⑥見栄を張って助けを求めないをやめる
- ⑦ストップして自分や家族のために時間をとる

(報告 楠本愛果)

労働安全衛生法の改正で、従業員 50 人以上の事業場に労働者の**ストレスチェック**が義務化されました。

志摩会としても精神疾患の未然の防止や症状が安定し、就労が可能な方の職場定着等職員が心身共に好調に仕事ができるよう、取り組みます。

…うつ病は現代社会における精神障害の中で最も発症率の高い疾患です。誰もが発症するリスクや要因を抱えている『心の風邪』といえるもので、他人事ではありません。

…最近では若者に多い『新型うつ病』は他罰的で逃避的、未熟な人格で自己愛的性格が強く、叱咤激励は必要で、本人のペースに合わせるとただ徒労になりそうです。

先生はまた介護者自らのストレス対処、それから職場でのサポートの方法などを具体的に

連載
企画

いろんな職種から見た 介護の仕事

(第3回)

職員リレー



志摩会に働く170人余りの職員の皆さんに仕事や職場、仲間への思いなどを語ってもらっています …

やさしくもない、世話好きでもない私がケアマネジャーの仕事を通して変化…



脇山 小夜子
(施設ケアマネジャー)

◆志摩会勤務15年目です。居宅介護支援専門員から始まり、現在は老人ホーム志摩園の施設

設ケアマネジャーです。

◆ケアマネジャーとして仕事をする中で知識不足を感じ、社会福祉士、精神対話士、カウンセラーの資格を取得。学ぶことは、自分自身の安心につながり、仕事に自信を持てるようになったことと、人との関係性に負担を感じる事が少なくなり、生き方が楽になりました。志摩園の勉強のしやすい環境のおかげです。

◆入所者やご家族の何げない一言から仲間と一緒に行事を企画してご家族をお招きしたり、お話が困難な方のお気持ちを察することでその想いを形にできるようにと考えながら仕事をしています。

◆ケアマネジャーの仕事を通して自分自身が変わることができたこと、そして良い仲間巡りに巡り合えたことに感謝します。



吉田 エミ
(特養看護職員)

◆急な子供の病気で休むことがあっても同僚のみなさんが支えとなってくれるため、とても有難く思っています。子

二人目の子供を授かり、産休・育休から職場復帰ができました

育てから離れた先輩ナースにいろいろとアドバイスをいただきながら、育児、家事、仕事に奮闘(?)しています。

◆入園者の皆さんとは朝の検温から始まり、お声かけをしながら小さな変化の有無にも注意して接しています。

◆ご家族には面会時等にもできる限りご本人の体調や受診の結果等についても報告、説明に努めています。

◆志摩園の中では介護職員、看護職員などの思いをいつも意見交換しながら連携してケアの統一を図っています。

◆一日の疲れを取るため、お風呂あがりに足裏のツボや“長生きしたけりゃふくらはぎをもめ”を実践中。



鬼木 美香
(特養介護福祉士)

◆専門学校を卒業してすぐに志摩園で働かせていただき、7年目になります。入園者の皆様とも沢山の出会い

仕事上、心掛けている事は“笑顔を保つ”、“誰よりも挨拶をする”です

い、別れもありましたが、あっという間でした。これだけ続けてこられたのも職場のサポートがあるからです。

◆志摩園は仕事で悩み、行詰った時に自分のことのように親身になって一緒に悩んでくださる先輩や同僚が大勢います。私は、志摩園で働けて本当に幸せだなと思っています。

◆最近嬉しかったことは、入

園者様から「笑顔がいいね」「いつもありがとう」と言われたことです。

◆趣味はカフェ巡り。コーヒーが大好きで糸島のカフェは殆んど行きました。特にお気に入りには TANA カフェです。それとパワースポットを求めての旅行です。効果絶大!!

◆これからも入園者の皆様に信頼される職員になりたい。

10月16日 第49回志摩園招待ゲートボール大会



絶好の
ゲートボール
日和のもと、
今年も



地域から
5チームが
熱戦を。
志摩園は
4位でした。

10月20日 第2回入所検討委員会

10月26日 加布里ふるさと文化祭出店

11月15日 たからんたま収穫祭

8月15日 師吉区夏祭りの協力



雨がうめしい今年の
夏でした

9月27日

たからんたま志摩稲刈



★次号は来年1月末発行予定です

青空保育園児の皆さんも

小さな手でがんばってくれました

【編集後記】 燕たちもそろそろ南国へ向けて旅支度をする季節です。

6月下旬、清掃中に誤って落とした巣から、突然5羽の燕のヒナを事務室の隅で育てることになりました。保護した時は丸裸ではなかったものの、羽管から羽が少し生えてきた状態で、すぐに、ネットで育て方を調べたところ、ツバメの飼育はかなり難しいと…。

かといって後戻りもできず、空箱を用意して、保温が大事ということで職員から使い捨てカイロをゆずってもらい、エサは“ミルワーム”をみんなよく食べていましたが、体の小さい順に3羽が育ちませんでした。

2羽は日毎にツバメらしい姿に成長し、しきりにホバリングするようになったので、巣箱をもっと大きな段ボールに換え、首の調子が悪かった1羽のリハビリも兼ねて箱の中に止まり木を入れてみたら羽をバタバタさせバランスをとってしっかり止まることができ、巣の底に降りても自力で飛び移っています。首の障害を心配していた一羽も良い姿勢になりました。

さて、巣立ちはできても人に育てられたツバメはその後に苦難が。飛びながら餌を補足する技術、天敵から身を守る術などは親から教わるもので、「人ができることは巣立ちまで、そこまでが限界です」と福岡市動物園の職員さんに教えてもらいました。

カルシウム不足対策には牡蠣殻を粉末にして、ピンセットで口まで運んで与えていた餌はくちばしから少し離して自らつばむように変えたり、ワームをくちばしから横にはみ出すようにしても落とさず上手に飲込めるようになりました。

台風の影響もなくなった7月11日朝、2羽は職員の見送りを受けながら、大空に飛立ちました。その後事務室の窓から4、5羽で電線にとまっている姿がみられ、仲間（親かも？）と合流できた様子でした。

来年戻ってくればうれしいですが、井上陽水の初期の名作〈神無月にかこまれて〉の一節「また来る春があるかどうかは誰も知らない、ただひたすらの風まかせ…」を想起します。燕のヒナを育てあげられたのは、ギャラリーとしても盛り上げてくれた職員の皆さん（応援してくれ、関心をもってもらえて心細さがなかったこと、一人では途中であきらめていたかも）、確実に自力で生き延びる方法などの質問に、的確に答えて頂いた、さすがプロと思わせる福岡市動物園の職員の方のおかげです。

これは子育てや介護にも通ずる心理過程の経験だった気がしています。

（A・K）